

尾瀬 大江湿原における防鹿柵設置後の経過報告

会津森林管理署南会津支署

総括森林整備官 櫻井 勝
森林情報管理官 辻ノ内 桂志

経緯

地元よりニッコウキスゲを含む大江湿原の植生をニホンジカの食害から守る対策を行ってほしいとの要望を受け、南会津支署で防鹿柵を設置している。

事業概要

湿原の周囲3,550mに防鹿柵を設置。
積雪による破損を防ぐため、金網を毎年6月設置、10月撤去。
防鹿柵の効果をモニタリングするため、センサーカメラを設置。
平成26年度：設置開始3,470m
平成29年度：追加設置80m、柵周辺にセンサーカメラ設置開始
平成30年度：歩道の出入口に両開きのドアを設置



(図1) 大江湿原と防鹿柵設置位置 (地理院地図の衛星画像を編集)

湿原内への侵入防止効果

(令和4年 環境省ライトセンサス)
金網設置前：6月8日 23頭、6月22日 32頭

↓
" 後：7月4日 0頭、7月27日 0頭
(ただし、8月以降の調査では数頭確認されており、原因として斜面に近い一部の防鹿柵を飛び越え侵入している等が考えられるので、対策が必要)

植生回復の効果

ライトセンサスの結果から、湿原内に侵入するシカの数は減っている。
ニッコウキスゲについて、柵外でほとんど見られないが柵内では開花している。【写真1】

協議会による取り組み

平成29年度から令和元年までボランティアによる柵の一部の設置・撤去を南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会(※)の活動として実施。
令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響により協議会の加盟団体で実施。

今後の課題

- 防鹿柵の老朽化【写真2】(これまでも行っているが令和5年度も支柱の一部を交換予定)
- 残雪期に大江湿原へニホンジカの侵入が見られるが、金網が雪の下にあり設置が間に合わない。
- ボランティア活動の再開及びシカ対策を周知するための更なる展開。(ツアー等)



【写真2：防鹿柵の補修状況】



【大江湿原、尾瀬沼】

【※南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会】福島県南会津地方振興局(事務局)、檜枝岐村、南会津町、福島県猟友会会津支部、尾瀬檜枝岐温泉観光協会、(公財)尾瀬保護財団、尾瀬山小屋組合、環境省関東地方環境事務所檜枝岐自然保護官事務所、会津森林管理署南会津支署(オブザーバー)